

川への思い出

小川 遼馬

ぼくはお母さんの方のおばあちゃんの家へ
夏休みの時にいきます。おばあちゃん山梨
県に住らしています。その時毎回東京の川と
山梨の川のちがいにぎぎぎます。中川の川の
流れはとも急で速いですが、山梨の方
はゆっくり流れています。しかも水はとも
すき通っています。それによつて、プエなど
の小魚河口にはコイなどがいます。そのコイ

に、飯をあけると穿つてきます。たしかに中川は大きな川、さきほびでできた川は小さな川です。しかし、流れは急で速いのは、真実です。このコイに、飯をあげた、という思い出では、なくトータルで思い出だ。そのように、考える、考えた、という事が好きで、トータルは、川に落ちた事だ、で落ちる前、川に行くと途中これかも全て思い出という事です。

さで、話しは変わるのです。が、川は命を持
て、いると思いませんか？ ぼくは川の掬業で水

を流す実験をしました。水は流すと最初は勢
いよくどんどんおとる。最後は、という形で
進みます。人生と似ているとぼくは思います。
川は自然に作られたものと人工的に作られ
たものがあります。どちらにしろ川は川です。
思い出しいうが、トラウマというかなんです
けど、わくわくしていった川でおぼれかけた
んです。いっきに増水してだかまだ少し
トラウマが残っているんです。だから川だから
ってはいやぎすぎたらのまねるので気を付け
てくださいね。

